京城新報

人の一生は重き荷を負て遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年紀元二千五百七十年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵税一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊(日刊)
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲新報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六二)
發行所 京城新報社

雜錄

漢城より

十月二十五日 熊浦邊人

▲關東朝鮮の紳士共同出資して製紙會社を組織せんと欲し、盡力準備すること數年、此程に至り將に成立せんとするに際して内訌起り、遂にモノに成らずして消失せんとすと、切角の思ひつきなるを氣の毒千萬、吾等は曾て該會社の起されんとする由を報道したる縁故のあるにより茲に其の成行を記すもの也。

▲元の宮内府の馬車、今は李王家の所屬なるべし、其の馬車の内に練習用のものにやあらん高臺無蓋の四角なるがあり、常に馭者馬丁等が數人乘込みて鐘路の巷を駛するに曾て馬丁の前に驅けるを見たること無し危險云はん方無し、嚴に戒飭するを要す。

▲二十五日夜十時十分、東部梨峴より電車に乘り鐘路に至る間、行違ふ電車の數三臺ありしが、乘客の最も多きが四八、一臺は運轉士と車掌とが寒さうに立てるのみ、夜の都大路は實に斯の如し、吾等は夜間開市の必要切なるを覺ふ。

▲城内に於ける商店ならざる新らしき宏壯なる住屋の多くは官舍也、而して吾等は見る度に宏壯なるに驚くもの也、今は空家とせられるも少なからざるべし官吏の或者に曰く、大きなる官舍を當行はれて經費の嵩むこと夥しさ、惡戲か抑も亦他に理由ありや否やを知らねども、住む者に取りて有難迷惑なる官舍は廢するが可、夫には今が丁度好時機なり、空屋に成れるは勿論、然らざるも官舍の多くを人民に拂下げ官吏の身分に相應したる家屋を建つるが可、多少の損は忍ぶるやも知れねど、住む者の迷惑なる官舍を當行ふは寧ろ惡戲と見做て可笑。

▲昨日朝鮮人が恩賜公債を引當てにして内地人に金の融通を依頼する者多しと寔に以て度し難き者共也、然るに内地人にして其を寄貨として一儲せんとする者もありと、往年臺灣に於ては斯る輩を退去せしめたる例ありとか、固より法令に依れる退去にあらざれども行政處分の方法に依りて自ら退去するを餘儀無くせしめたるなりと、朝鮮に於ても或は退去命令の流行る時節來らんも知れずと云ふものあり。

麻產地の調査(三)

朝鮮製麻會社技師村松氏談

予は此の朝鮮產苧麻を以て會社の原料ともなし又は日本内地に年々多額輸入してある支那麻に對し當朝鮮より輸出を試んと目的にて忠淸南道扶餘郡を始めとして魯城、石城、論山、恩津、林川、鴻山、韓山、舒川の各郡麻布の狀況を親しく視察し群山に出てこれより全北臨坡、万頃、泰仁に入り込み同郡南村面新基なる李大瑞を訪づれ同氏の製品を看るにその品善良にして支那より母國に輸入する支那麻に髣髴たるを以て一般是に準じて製綿する事を奬勵し置き是より全南木浦順天を經て光陽郡へも迂廻し馬山、大邱にも立寄り歸京せしが本社の目的とする原料蒐集には聊かの困難なく何地に於ても朝鮮人競つて之れが仲買となさんと希望する者多く結局群山と木浦にて大纏めになすことを契約し以て地方郡村には些商より關係を結ぶ事をなし且つ紹介し置けり製綿の良否は大麻部に隙たる如く機械用となすには差支へなきも原料其儘を輸出品となすには今一入の注意を拂はざるべからず故に支那麻見本を與へ此通りに製造せよと奬勵し置けり價額には種々高低ありて一定せざるも仲買人の手によりて是を一纏めさせば京城着百斤(十六貫目)十二三圓内外の見込なり本麻原料蒐集の量は一ヶ月苧麻大麻共年內四萬斤位にて此位を得るは群山のみにても優に之を集むる事と成るらん苧麻の收穫取調べをなせしも元來苧麻なるものは前陳の如く山野自生の多年草にして年々株より出たる新芽を年三回に刈取るものにて畑間又は川岸畑畝等に繁殖しあれば一反歩收穫高を詳細に知る事は稍困難とする處なりとす之を要するに南韓地方殊に全羅北道の如きは全く苧麻の特產地とも云べく年々之を麻布の產地とも稱すべき忠南韓山地方に搬出し此地にて織り出す產額の宏大なるを以て全國民常用衣服地の大半を供給すると盛なりと云ふべし而かも此一大工場たる此一地方の工業は謂ゆる内地二十五年前の手紡ぎ式時代にして一反の麻布を精成するに二十餘日を費すなりと云ふに至ては如何に此際機械的紡織的業計畫の有利にして且必用急務なるは獨り予輩の報告を俟つて而して後之を知るの迂なるを歎せざる可らざるを疑ふの一事あるのみ(完)

京城局の事業統計(五)

振替貯金

受入

年度別	口數	金額(圓)
三十九年度	八四	二五、五五九、〇二八
四十年度	二、三六一	三五六、六九八、六五五
四十一年度	三、一二一	三二九、八二一、一一五
四十二年度	三、八三三	一〇六〇、二八三、九四八

拂渡

年度別	口數	金額(圓)
三十九年度	三六	六、八七八、〇五〇
四十年度	一〇六	七、五八四、五二七
四十一年度	二五四	四三、〇一八、〇三〇
四十二年度	四五〇	一二四、九九二、四九二

備考 一開始四年間に過ぎざるに長足の進歩をなせり是れ公衆に最多く利用せられたる便法に依れる

郵便取立金

受入

年度別	口數	金額(圓)
三十九年度	四、八九二	六二、七三三、〇四五
四十年度	六、六四三	九六、四二四、三三〇
四十一年度	八、一三三	一一三、四四六、八三〇
四十二年度	八、八〇九	一三六、八五四、八九八

拂渡

年度別	口數	金額(圓)
三十九年度	三、九三二	三六、二〇四、三八三
四十年度	六、〇九二	五四、三四五、八七五
四十一年度	七、九四七	六三、一〇一、六〇三
四十二年度	一一、三〇一	八〇三、三〇四、五一七

備考 一主として代金引換小包代金にして現金取立は稀少なり增加割合は振替貯金の如くならざるも年々累加せり

●京義線工事の盛況

本年度鐵道工事の中心點たる京義沿線の改修工事は最早結氷時期に切迫したるを以て其以前に竣工せざれば請負人が多大の損害を蒙るに依り先月末日以來滿國苦力を增加し日夜工事を進捗し居れるが大体に於ては既に八分通りの竣成を告げ本月中には全部竣工せんとて頻りに苦力を增しつゝありて盛況なりと云ふ

講談

越後傳吉

大岡政談 第百八回 燕堂南陵講

越「庄左衛門、はや、最早や天命免れぬ所である、汝等の罪科明白たり、速かに罪に服せい、庄藏、れうめにれいてもその通り潔く白状をいたせ、何うぢやッ」越前守殿は拷問にこそかけねど次第に理に使つて責められるのは拷問よりも辛い、もうこのときにはいた仕方がない、庄左衛門、はや、庄藏、うめの四人は一同「恐り入りましてございます 越「庄左衛門恐れ入つたか 庄「ハイ 越「然らば罪の次第を一々申立てい」隱す由もございませんから、泉河原の人殺しから傳吉を無き罪に陥れた事情まで漏なく申立てました 越「庄左衛門 庄「ハイ 越「因果應報といふことがあ(る) 庄「ハイ 越「首を斬取て泉河原に放込んだその女といふものは、庄左衛門、汝の現在の娘ではないか」庄「窪んだ兩眼より庄左衛門ハラ〳〵と熱い涙を流して 庄「ハイ 越「三浦屋に抱へられた可睨といへる者はうの方の娘で、八歳の時淺草へ参り、誘拐されたものである、汝の如きものでも親として慕ひ良八金之助と越後の高田へ翻つて参り又もや誘拐されたのを知らず汝が手にかけたは能く〳〵の因縁である、何うぢや庄左衛門 庄「恐れ入ります現在のわが娘を手にかけたとも知らず其首を隠しましたは全く今日まで作つた罪の報い、恐ろしい事でございます此上は一時も早う冥途に参り娘に詫をいたします、何うぞ處刑を願ひます 越「ム、、、善心に立歸りたる段神妙の至りぢや、然らば罪の次第速かに相分つた、處刑の儀は追て申渡す 庄「ハイ 越「黒崎伴右衛門 伴「ハ、ッ 越「庄左衛門、白状に依つて事明白たり汝恩愛を以て無き罪を傳吉に被せ彼を亡きものに致さんと計りし段、重々不埒である、恐れ入つたか 伴「恐入り奉ります 越「ム、、……傳吉 傳「ハイ 越「その方は身に疚しき覺え少しもなく、身の災難にて今日まで二十一たびも拷問を被り、それを忍んだるは實に剛なるものである殊に到底身の完からぬを思ひ無き罪に伏したる心根殊勝に存ずる、併し天は正道を照し給ひ今日は汝に罪無きことは明白と相成れり 傳「有難い仕合せでございます 越「傳吉妻せん 仙「ハイ 越「良人の大難に我が身を窶して伊賀守様のれ駕籠に直訴をいたし、良人を助けて今日に及びたるは汝の貞女たるべき處、上にれいても悉くれ賞めに相成る、左様心得い 仙「有難い仕合にございます 越「中村屋與兵衛 與「ハイ 越「その方さしも傳吉を助けんため苦心に及びたる段道れなり汝の義俠れ賞め置きに相成る 與「有難い仕合せにございます 越「甚右衛門に三右衛門、大儀であつた 甚「ヘイ 三「ハイ有難い仕合せにございます 越「共の他一同の者拂ひなし、起てい」これにて事情明白に相分り、傳吉は喜びながら與兵衛、れせんの手に扶けられて出獄いたし、甚右衛門三右衛門等が 兩「ヤレ旦那さん、目出度ひことでございました」と嬉し涙に暮れる、更めて越前守殿より越後頸城郡高田の城主戸田能登守殿へれ引渡し、郡奉行黒崎伴右衛門の罪科をば悉くれ認めに相成る、黒崎伴右衛門は戸田家にれいて十分の處刑に行ひ、倂庄左衛門、はや、庄藏、うめの四名とも同じく戸田家にれ引渡しになつてれ處刑になる、また傳吉は正直にして義心に強く、情深きものなれば十分重く用ゐて取らせ、上にれいて御賞美の人間であると、戸田家へ仰渡しになつたから、早速戸田家では、黒崎伴右衛門は切腹させた上家改易、庄藏、うめ、はや、庄左衛門は戸田家に受取りましたときにうめはもう病つて居たのだが御牢内で到頭腹の中の子供も死で、已れも病死してしまひました、はやも牢内で病ひついて牢死をいたし、殘つた庄左衛門、庄藏の親子は引廻しの上泉磧にれいて打首獄門、このた處刑のときに一同が笑つて見物に行たといふ、イヤハヤ何うも淺ましいものでございます、傳吉ことは大岡越前守殿より斯の通りた賞めに相成つたもの、即ち越後の戸田家の譽れ、傳吉は二字帶刀御免、二十七ヶ村の大名主、井上傳吉と改めまして以前に優る勢ひ、固より拷問にかゝつた身体で傷んで居るが、これは僅かの間に全快いたし、れせんは貞女の譽を以て戸田家より御褒美を頂き、越後國に隱れない適れ正直の傳吉、貞女たせんの夫婦、ます〳〵家は富榮る、夫婦の間に出來ました子を以て中村屋與兵衛の後を繼せ、與兵衛の身は傳吉の方に引取られ生涯御隱居で暮しました、甚右衛門、三右衛門は傳吉の家とこれから後は親類の交際、然らばこゝにて傳吉の家は代々富榮ましたといふ、長らくの間伺ひ來りました大岡政談、孝子の與もこれにて大團圓といたします

東京電報

▲両院と玉座問題 議院建築委員會に於ける玉座問題は貴衆両院委員間の確執となり未だ解決に至らざるも結局現狀維持に終るべしと觀測せらる(廿七日)

▲觀兵式場行幸仰出 天皇陛下には十一月三日天長節當日午前八時半御出門青山練兵場に行幸觀兵式を行はせらるゝ旨仰出されたり

▲大浦農相の演説 大浦農相は本日全國農工銀行連合大會に臨席し一場の演説をなしたり(同上)

▲雨改正案と閣議 當局より内閣に廻送せられたる商法改正案及學制改正案は其後法制局の審議に係り此程大体審査を終りたれば近日閣議に提出せらるゝに至るべし

▲小村外相の快癒 小村外相は久しく肛門炎に罹り満田博士の施術を受けたるが自來科過速かならざりしが爲め種々の風説傳はりたるが昨今は殆んど元氣恢復し庭内の散歩は自由となり一週間以内には登省政務を見るに至るべし(同上)

▲東京市の歡迎會 東京市に於ては今二十七日載濤貝勒殿下御一行を芝紅葉館に招待して歡迎會を催し餘興には紅葉踊を御覧に供せり尚は今夜八時より歌舞伎座に於て滿鐵會社主催の臺覧劇ある筈にて同座にては種々装飾を施すなど目下開場中とて本日は休場して歡迎準備中なり(同上)

▲都邑金利の平均 都邑の金利平均を期する爲め調査中なりしが愈々本期議會に提出の運に至るべしと右は土地抵當銀行を設立して之れが爲め勸業農工銀行の發展を害するが如きありては面白からず殊に勸業銀行は漸次不動産銀行的に發展しつゝあれば特に別個の銀行を設けず勸業及び農工銀行法の一部を改正する事に内定し倘貸附金に對して大藏省預金部より低利に融通する筈

▲觀光團の京都着 朝鮮觀光團一行は今二十七日午前八時京都着停車場には知事市長市名譽職其他一般歡迎者數百名頗る盛なり一行婦人連も至極元氣に見受られたり

▲銀行家の財政評 桂藏相の財政方針に就て三井の早川理事は曰く吾人の尤も杞憂せる朝鮮併合に伴ふ國費膨脹が極めて少額の費用にて足り全般に亘りて滿足する所なり財界の前途は勿論經濟界一般に好

影響を與へ事業は促進せらるべしと確信す此際吾人は事業と金融との調和を謀り國家發展に資せざる可らず云々三菱の豐川理事は農相の演説は吾人の期待以上を聽き得たり銀行家一同の滿足と共に財界不安の聲は根絶すべし殊に産業發展の機運に向ひつゝあれば一段の盛況を見るべしと

▲山林局の材木拂下 農商務省山林局の所管に屬する各地製材所に於ては年々一定の材木を伐採し民間に拂下げ之を各年の豫算に計上し居れるが從來市場の狀況により其收入に多少の增減ありしも大なる相違なかりしが本年度に於ては青森大火の際格安に拂下げをなし罹災民を救助し大雨大雷雨出水の爲め豫定の作業意の如く進行せざるが爲め其結果收入金減少の見込みにて目下專ら調査中なり(同上)

▲伊博と日本製茶 明年伊太利に開催の萬國博覽會に我が農商務省にては本邦製玉露上等品を持參し日本製茶器を以て御來場の兩陛下並に貴賓方に日本茶を献せん計畫にて目下其の出品準備中なり(同上)

▲商品改良授與式 農商務省商品陳列館に於て開會中の第二回商品改良會は來る廿九日を以て褒賞授與式を擧行する筈なり(同上)

▲赤十字社新計畫 日本赤十字社は各支部に於ける救護材料計畫の貯藏方法統一を期するが爲め今回全國各支部に專門技手を置く事に決し目下本部に於て講習中なり(同上)

桑港電報

▲獨太子の御旅程 獨逸皇太子殿下極東御巡遊の日程は左の如く確定したり(同上)
十一月三日伊太利ゼノア御出發十日古倫母着同所にて妃殿下と共にカンジー御訪問十二月十四日ボンベー着印度御滯在は二ヶ月の豫定翌二月中旬カルカッタ發二十日新嘉坡着盤谷バタビヤ、香港を經て三月三十一日清國に渡り青島に四月四日迄滯在天津北京御訪問の後横濱御着は四月二十四日と確定殿下は東京滯在後神戸長崎に御立寄り五月十五日浦鹽を經て歸國、莫斯古、ペテルブルク訪問後御歸國の豫定なり

雜報

閔妃追悼式擧行 二十七日は舊暦十月八日に就き恰かも閔妃殉落後十五回期に相當するを以て德壽宮にては恒例の通り追弔祭を執行せり式場は同宮孝景殿にして李王及妃殿下を始め李熹公殿下侯爵朴泳孝伯爵李完用伯爵閔泳𡧖子爵高永喜同閔丙奭其他十數の貴族姻戚者參列し祭官の指導により李太王殿下先づ慟哭の禮を擧げ一同之に和し最も壯嚴に之を營み午後三時退散せりと

●面長會議の規定 内務地方行政に就ては各地方とも夫々習俗民情を異にするより一概に律すべからざるものあるより内地に於ける町村長會議に準じ朝鮮に於ても面長會議なるものを起して府郡行政の諮問機關たらしむべしとの議當局の間に起りて目下議事規程を編成中なりとの事なるが今後は勉めて面長會議の意見を採つて施政の方針を定め緩急機宜を得せしむべく又面長會議は毎月數回宛必ず開會する運びに至るべしと云ふ

●守備隊歸休の延期 目下朝鮮守備の任務を帶びて各地に駐劄し居れる第二師團及び獨立守備中の臨時派遣隊にして本年十一月三十日を以て滿期となり歸休除隊となるべき各隊は例年其時期に於て内地駐劄地の兵と交替する筈なりしが本年は各守備隊共五ヶ月の歸休延期となり明年四月を以て新兵と交替することに決し官報を以て發表されたるが其内容を聞くに本年十二月一日を以て入營すべき新兵は更に軍隊教育は勿論日常の勤務に服すること能はず朝鮮守備としての目的を達し得ざるのみか又内地駐屯として殘留する者も其勤務に經驗尠く且つ殘留部隊としての事務に門外漢なるより責めて第一期教育のみにても授けたる上第二期後の教育は夫れ〳〵駐劄守備中傍ら授くることゝなりたるものなりといふ

●地方治道工事狀況 地方各道に於ける治道工事の狀況に付き聞く處によれば昨今各地共天氣快晴にして各工事も意外に進捗し來る十二月中と見積りし工事も十一月下旬乃至十二月上旬に竣工するの狀況にして其進捗實に驚く程なりといふが其成績亦見るべきものあり當局にては更に大々意氣込にて從來の分は全部十二月中に竣工の見積なりと

●昌德宮殿下の御成 李王殿下には妃殿下と御同乘廿七日午前十一時昌德宮御出門あり同三十分德壽宮に御成り別項所載の故閔妃殿忌辰の祭典を修せられ午後三時德壽宮御出門同三十分御歸宮されたり當日の隨員は元宮内府員及び女官數名にて御道筋は例の如く嚴重警備をなせり

●李王殿下警衛規定 李王殿下の御出門に就ては自今特命ある場合の外は途上警衛取締列次を左の如く相定められたり
△前驅警部を中央に左右巡査△殿下馬車後憲兵準士官を中央に憲兵上等兵△隨行馬車後巡査△列外署長

●平南鐵道の開通式 平南鐵道の開通式は鎭南浦及び各地方に於ける虎列拉病流行の爲め一時無期延期の姿となりしが愈々來る十一月六日鎭南浦に於て盛大なる開通式を擧行することに決定せる由

●名古屋觀光團總員 名古屋商業會議所主催朝鮮貿易視察團は名古屋市長を首領とし總員五十名なるが十一月十七日渡鮮する由なり

●大觀光團歸期變更 鐵道院主催第二回觀光團は十一月十三日歸途乘船の筈なりしが十四日に變更

聯合會と建議案 十一月十一日より向ふ約一周間の豫定を以て開催さる可き在朝鮮日本人商業會議所聯合會提出議案は目下同事務所に於て取纏中なるが二十七日までに到着せる分は左の如し
▲木浦商業會議所提出
(一)貿易統計に關する事務を各税關及支署に於て取扱はしむる事を其筋へ建議の件
▲群山商業會議所提出
(一)米穀其他農産物移出税撤廢に關する件(二)拓殖銀行設置に關する件(三)道路改築及長距離電話架設に關する件(四)朝鮮の農事特に濕米改良に關する件
▲釜山商業會議所提出
(一)聯合會經費負擔に關する規定改正の件(二)漁具漁網に對する無税通關要望の件
▲元山商業會議所提出
(一)京元三南兩線速成請願の件(二)平元間道路改修請願の件(三)黑鉛無税通關の件(四)日本海横斷航路補助金下付請願の件(五)測候所增設請願の件(六)京元間長距離電話架設の件(七)砂鑛法改正に關する建議の件(八)海港檢疫手續省略に關し建議の件(九)元山釜山間定期航路開始の件
▲清津商業會議所提出
(一)朝鮮鐵道第二期計劃たる北朝鮮鐵道改良の急施を望み併せて日本海横斷航路との連絡完成を期する件
▲仁川商業會議所提出
(一)會議法制定に關する建議の件(二)同業組合法及輸出重要品組合法制定に關し建議の件(三)輸出移出税金全廢の件(四)特種銀行設置建議件
倘は鎭南浦、馬山、大邱の三會議所は未だ提出し來らず又京城會議所は目下研究中なるが大體左案を提出する筈也
(一)在朝鮮本邦人商業會議所資格に關し請願の件(二)出入貨物通關の敏速を圖る爲め税關檢查官吏增加請願の件(三)土地整理急速進捗に關する建議の件(四)土地所有に關する建議の件(五)朝鮮移出税金全廢建議の件

本社主催日鮮人合同

奉祝天長節大提灯行列

日人側總指揮官 古城民團長
鮮人側總指揮官 兪府民會長

一、參加人員豫定 一萬人
各商工團体、各銀行、會社、病院、諸學校生徒、鐵道局其他一般官民但し十二歳以下の少年者を入れず

▲行列順序
一、集合出發場所 光化門前の廣場
一、集合時間 午後五時
一、出發時間 午後六時
一、軍樂隊を先登に立て順路光化門前より長谷川町に出て府廳前本町一丁目を左に折れ本町通りを通過し新町に出で新町より大和町に出て直行日の出町を通過し日の出町小學校角を左に折れ總督邸に達し茲にて天皇陛下の萬歳を三唱し右倭城台に登り大神宮前に於て万歳を唱へて解散す
一、參加者心得 參加者は何等費用を要せず尤も各自の提灯と蠟燭とを用意せらるべし
但提灯は日本、朝鮮其の他何種類にても差支へなし

本年の天長節は併合後一第の佳節なり此際に於て日鮮兩臣民合同して御聖文武なる陛下の御誕辰日を祝するは快亦た快の事なり因つて本社は其筋の認可を經て奉祝の計畫を爲す、有志日鮮人諸君奮つて御參加あらんことを

京城新報社

●税關の繁劇と停滯 仁川釜山を始め朝鮮各開港場に於ては税關の埠頭貨物山積して税關吏の日夜繁忙を極むるに似ず取引商人は空しく貨物底滯の爲め商機を逸するとの嘆聲は屡々耳にする所なるが右は税關吏の數内地の其れに比し甚だ割合少なき爲め手不足は自然に貨物の出入に影響する次第なりと今昨四十二年度に於ける横濱、神戸の二港と仁川、釜山二港との貨物出入個數と税關官吏を比較せば

横濱	七一、三三二六個	四十七人
神戸	六一、一八八個	三十七人
釜山	八二、六八三個	七人
仁川	七四、六七二個	九人

右の如くなり單に貨物の個數のみを以て一概に率すべからざるは素よりなるも右の如く税關吏の數到底割合を異にするより税關に於ける檢查の遲延亦是非もなき次第なり當局に於ても茲に鑑みる所ありて近く吏員を增加すると議起りたれば近々事實となりて表はるべしと云ふ

朝鮮町夜間の開店に就て 十八銀行京城支店支配人 中西喜久男君談

朝鮮町夜の開店は誠に結構だ、何しろ今では夜間に買物をすることは出來ない、見た處では酒屋のみは夜間も店を開けてゐるやうだが、他の品物を買はんには晝間、仕事の隙を見てするか若くは仕事の手を休めて買ひに行かねばならぬ、然るに夜間店を開くとなれば時間の經濟は實に太したものと思はるゝ京城居住者が之が爲めに利用し得る時間は必ず何等かの利益を各個に收めしむるのだ、吾輩は此の點に於て大に夜間の開店を善いことゝ思ふ、併し誰しも考への及ぶ如く、初めより切て燈火料丈けの收益があるべきや否や、之れは疑問であると同時に營業者に取ては大なる苦心の伴ふ處だらうと信ずる、勿論間には什麼ことには一向頓着せぬ者もあらうが、少數者の開店ではダメ、矢張り大多數者の開店するので無ければ夜の町は賑はせぬ、サテ大多數者をして開店せしめ且つ開店せしむる効あるやうにするには夜の開明を司る瓦斯電氣會社の發奮を必要とするサテ一月經ち二月と過ぐる中には必ず夜間開市のことが周知されて營業者も相應の收利を見ることに成るでせう

●連絡船の船繰變更 關釜連絡船對馬丸は汽罐掃除の爲め休航中のところ頃日復舊せしが次いで會下山丸は二十六日朝發便後四日間休航することとなり右の爲め同日以後船繰左の如く變更したり
△壹岐丸 奇數日夜發航便
△對馬丸 偶數日夜發航便
以上二隻にて順次運航
△薩摩丸 會下山丸に代り甞航運航

●慶北の農産品評會 來る十一月一日より七日迄慶尙北道尙州に於て農産物品評會を開催することゝなり審査長には總督府勸業模範場技師三浦直次郎氏命せられたりと

●尙州の農産品評會 忠淸北道淸州に於て來る十一月十五日より一週間各郡聯合の農産品評會を開始する筈にて目下準備中なり

●咸北の農産品評會 咸鏡北道城津に於ては來る十一月十七日より十九日に於て三日間農産物の品評會を開催することに決定したり

●釜山商業生徒來仁 釜山商業學校生徒廿一名は廿七日修學旅行の爲め木浦丸にて來仁せり

●江木部長の來京 拓殖事務視察として本月初旬以來滿洲各地を視察中なる拓殖局第二部長江木翼氏は其後旅順より安奉線に出で安東縣新義州を經平壤に滯在同地視察中なりしが二十七日午後三時同地出發同午後十時二十分南大門驛着列車にて入京せり

●京城民會の開催 京城民團の繼續民會は既報の如く一昨二十六日午後二時開會せり而して四十二年度決算の件は委員會報告の通り異議なく承認し又團債借換の件は其手續に於て議員中尙は具備を望むものありし之れが爲に可決するに到らずして散會したりと

●前田子爵の歸東 過般來鮮各地視察中なりし前田子爵は二十七日午前九時南大門發列車にて新橋へ向へり

●釜山停車場移轉 釜山驛は十一月一日を以て新巡驛に移轉する筈也

●宋秉畯子の歸鄕 子爵宋秉畯氏は兩三日中に郷里に歸省する筈也

●高校秋季運動會 官立漢城高等學校に於ては來る二十九日午前九時より奬忠壇に秋季大運動會を開催すべく目下盛んに準備中なるが同日は職員十六名生徒二百餘名同三十分より徒歩競走を始めとして數十種の競技ある由

●仁川商會の流會 仁川日本人商業會議所二十六日の臨時總會は流會となり廿九日午後七時更に開會する筈なりと

●新任披露の招宴 檢事正松寺竹雄氏は來廿九日午後五時半より官民の重立者を花月樓に招待披露宴を催す筈

●土屋兵馬氏出發 陸軍中尉の同氏は廿六日午前廣島に向け出發したり

●宮部敬治氏入京 東京朝日新聞記者の同氏は廿六日入京京城ホテルに投宿

▲京城手形交換高▼

十月	金高	枚數
廿七日	五七、八〇八、四三	三一七

▲仁川港の出入船舶▼
▲四國丸 廿八日大阪より入港
▲四國丸 同午後二時鎭南浦へ向出港
▲木浦丸 同午後五時群山釜山へ出港

▲京龍兩驛の貨客▼
▲南大門驛乘降客 廿六日の分如左
乘車客 六六七 下車客 七六三
乘車賃金 一六二九、七七
▲南大門荷物扱高 廿六日の分如左
發送 一一〇屯 到着 五二七屯
發送賃金 一二六五、九四
▲龍山驛の乘降客 廿六日の分如左
乘車客 二四〇 下車客 二一七
乘車賃金 二〇五、九九
▲龍山驛荷物扱高 廿六日の分如左
發送 二七噸 到着 一七四噸
發送賃金 七四、〇九

▲沿外法螺▼

本社主催天長節奉祝大提灯行列の參加申込が續々來る二十七日午後までの通計が實に四千八百人だ、此分だと當日までには慥かに豫定の一萬人を越そう▲茲に一つの注意すべきことは奉祝提灯行列の申込者が内地人のみでなく朝鮮人に頗る多い事だ、新帝國臣民相携へて聖壽の萬歳を祈るは有史以來創めての事で必ずや陛下の嘉納し玉ふところだ▲思出せば今より五年以前、明治三十九年の天長節に記者は元一進會の會長李容九以下重なる役員十餘名を連れて、統監官邸へ參賀したことがあつた、伊藤統監は海陸武官總務長官其他の諸員を隨へ、大廣間に於て參賀を受けられた▲李容九は記者の筆になつた賀表を捧讀した、伊藤公は賀表を受取られて徐ろに答へられた、曰く諸子の誠意は自分より陛下に傳奏すべし、之れが乃ち朝鮮人民の天長節を祝せる嚆矢であつた▲物變り、星移り、今は一千有餘萬の半島民が内地人と一ショに聖壽の萬歳を唱ふるようになつた、今昔の感に堪へざる者豈記者一人のみならんや▲當地内地人の居住區域に電車の便のないのは不都合不文明の事だ、昨本紙に紹介した某銀行家の高架電鐵談、成程ど、うなづかれた、ドウカ至急に物にしたいものだ▲陸軍では三浪津附近で買集めた麥を一旦龍山へ輸送し夫れから晉州邊へ送つて居るソウだ、聞けば今の會計法ではソウせにやならんのだソウだが、去りとは隨分無駄をヤルものだ▲龍漢平渡某が就官中にゴマカシタ三千坪の地所がドコかにある筈だが誰れか知つてるかね。

▲仁川米豆取引所▼
[illegible]五錢六錢五錢六錢▲二節七十九錢八錢▲三節八十八錢七錢八錢九錢▲出來高二千七百五十石▲後場同十二月一節八十四錢五錢四錢三錢一錢二錢三錢▲二節八十五錢四錢五錢▲三節八十七錢六錢五錢五錢六錢▲出來高四千百五十石

▲大阪期米電報▼
▲前場(廿七日)十月限寄十四圓四十錢止四十八錢▲十一月限寄六十七錢止六十七錢▲十二月限寄八十一錢止八十四錢▲後場同上十月限寄四十三錢止同上▲十一月限寄六十九錢止六十六錢

●内務秋季懇親會 内務部地方學務の兩局員百餘名は二十八日午後四時より和樂園に於て秋季懇親會を開催す可く當日は宇佐美内務部長官の挨拶に次いで餘興として筑前琵琶及び落語等もある筈なれば定めて盛會なるべし

●天氣豫報(自廿七日午後六時) 北東風晴

▲仁川米豆取引所▼

五錢六錢五錢六錢▲二節七十九錢八錢▲三節八十八錢七[illegible]九錢▲出來高二千七百五十石▲後場同十二月一節八圓八十四錢五錢四

▲大阪期米電報▼

▲前場（廿七日）十月限寄十四圓四十錢止四十八錢▲十一月限寄六十七錢錢三錢一錢二錢三錢▲二節八十五四錢五錢▲三節八十七錢六錢五錢六錢▲出來高四千五百石 止六十九錢▲十二月限寄八十一錢止八十四錢▲後場同上十月限寄四十三錢止動小▲十一月限寄六十九錢止六十七錢

●内務秋季懇親會 内務部地方學務の兩局員百餘名は二十八日午後四時より[illegible]當日は宇佐美内務部長官の挨拶に次いで餘興として筑前琵琶及び落語等あ[illegible]

北東風晴

大提灯行列彙報

（廿七日正午迄の分）

別項社告の通り本社主催天長節奉祝提灯行列の參加者左の如し

▲漢城病院▲歌舞伎座音樂隊▲日韓瓦斯會社▲東亞煙草會社▲青木堂▲辻屋商店▲龜屋商店▲日韓書房▲山邑酒店▲三巴酒店▲京城吳服商組合▲京城時計商組合▲三井物產會社▲韓國銀行▲十八銀行▲第一銀行▲百三十銀行▲天一銀行▲韓一銀行▲漢湖農工銀行▲漢城銀行▲鐵道局▲東洋協會學校▲工業傳習所、外國語學校、師範學校、畿湖學校▲基督教青年會▲日鮮兩商業會議所（以上廿六日紙上掲載の部）

▲自轉車隊 本町の織居、明治町の瀧川、長谷川町の福田の各自轉車店主となり當夜百輛の自轉車隊を組織し自轉車の周圍を燈火もて飾り行列の先登に立たんと目下頻りに奔走中なり

▲日韓印刷 明治町の日韓印刷藤田合名會社の社員約二百名も參加の申込みありたる

▲東活版所 曙町の東活版印刷所よりも既に參加の申込みあり目下準備中なりと

▲日鮮時計商 京城日鮮時計商組合 申込みありし事は昨紙報道の如くなるが同組合にては本社の計畫を聞くや二十五日組合役員會に開き其準備に着手したる結果當日（三日）午後五時日鮮兩組合員約一百名南山本願寺に集り組合より用意の折詰を開き五時半同寺を繰出して指定地光化門前に參集し夫れより行列に參加し法螺貝及大太鼓を打ち鳴らし古代の軍樂を奏し且つ各自面上に時計のレッテルを被り屋臺を引き廻し以て大に其行を壯んにすると云ふ

▲衛生組長會 府内衛生組長一同は二十六日夜本町釘本金物店に集合し併合後第一回の盛典を祝する爲め奮つて行列に參加する樣印刷物を配布して組合内を勸誘するに決定せりと

▲京城商榮會 は市内中尤も大なる商組合にして其數約五百名に達し居れるが今回本社主催提灯行列の擧を贊して參加する事に決定

▲大塚支店 銘酒金露發賣元大塚酒店當地支店（明治町）も又大々的設備を爲し參加する旨申込あり

▲高等小學生 南大門第一小學校高等科男子部生徒約百名は校長其他職員に引率せられ參加する事となりたるが可憐なる少年が唱歌勇ましく歩武を整へ進行するの態は蓋し該行列中の花たるべし

▲龍山方面贊同 民團役所龍山出張所にては本社の擧を贊し直ちに衛生組長に檄を飛ばし目下各團体取り纏め中なり又印刷局、鐵道局員も參加の筈なれば龍山側は一定の場所に集合し隊を整へ京城組に投ずる筈なるが其方法等は追て發表の筈

▲各宗教團体 基督教青年會の參加は既報の通りなるが救世軍、本願寺派其各宗寺院も信徒を引連れ參加する筈

▲善隣商業 學校 職員生徒全部參加する旨申込みありたり

●電車車掌の名譽 大和町三丁目百四番戸西島義太郎なる人は二十二日便乘したる電車々掌の潔白なるに感心して二十五日附左の書狀を死斯電氣會社に寄せて謝意を表したり

拜啓小生儀本月二十二日南大門着の電車（六一號）に投乘仕候處牛價銀貨拂底の際[illegible]紙幣一圓を車掌に交付仕候偶々知人の同乘に會したる爲め談話を交換するに熱中し剩餘金の受領を遺忘し歸路に就き申候然るに昨朝守衛に於て該金受領すを得候義は實に御社御教諭の周到なると又車掌の潔白なるに感銘仕候茲に敬意を表し深く御厚禮申上候終に臨み貴社の御隆盛を無窮に奉祝候謹言

●敗訴鮮人の解禁 九月既報の威海衛在住元朝鮮陸軍中將閔泳吉より英政廳に九萬弗の民事訴訟を提起せられ裁判の結果敗となり爾來監禁中に在る朝鮮人徐相集は必要事件の取調べ結了に付不日監禁を解かるゝに至る可しと民政副長官は明言せり目下訴

材木商山林盜伐

大阪府人當時青坡町材木商狩谷大三郎は朝鮮貴族某伯爵家と閔丙奭との間に問題ある京畿道廣州郡松亭里在山林を閔丙奭より買受けたりとて該山林の立木を伐木し其の運搬に着手せしより伯爵家より告訴せられ龍山警察署に於て竊盜犯として取調べの上檢事局に送られしが秋場檢事は該裏相取調の結果強盜の所爲あるを以て地方裁判所に送り菱谷檢事の手にて豫審に附せらる

●仁川水道通水式と餘興 通水式當日餘興として日本公園内に廻行灯を本町淺井病院前空地に小野道風仲町一山跡に六角堂を出來中に上下を着せ

社告

本紙連載の講談「越後傳吉」は非常に讀者諸君の歡迎を受けしが本日を以て愈々大團圓を告げたれば明日より新に「西尾麟慶」講述に係る

山中鹿之助

を掲載する事とせり同講談は即ち山中鹿之助の生立より尼子十勇士の活躍に至る長篇のものにして血あり涙ある勇士を中心として時に花の如き美人現はれ或は抱腹絕倒の滑稽事あり回を重ぬれば重ぬる程益々佳境に入る麟慶獨特の講演振りは蓋し絕好の讀物たらん讀者諸君幸ひに愛讀を賜はらん事を

●淨土宗の追弔會 去る二十五日午後二時より明治町淨土宗開教院内淨土宗婦人會にては故故藤公の一週忌法會を兼ね故會員の追弔會を執行したるが集るもの四十餘名遺族會編又男氏（代理人）山根正次氏夫人令孃及林文太郎氏（伊藤公從弟）の四人來會盛なる法事を營み右終て說教等あり五時頃解散したり

[illegible]し人形其他[illegible]附近に大噴水仕吉踊器械体操等何れも水を利用したるものを設置し夜間は電燈會社より電燈を寄附し興を添ふる筈なり

●横領犯人の檢擧 富山縣新川郡三日市町當時本町九丁目十三番戸旭敬次（二二）は本年三月頃横領及竊盜嫌疑犯として南部署に拘禁せられたる事あり其筋の注意人物なりしが此の頃新町遊廓第一樓清進樓等に於て身分不相

●辻本の控訴公判 元銅峴分署刑事巡查三重縣人辻本茂左衛門は第一審裁判所に於て横領及瀆職罪に因り懲役十箇月に處せられしと不服控訴せし事は既報の如くなるが第一審公判の當時彼れは伊藤檢事の論告に對し此ハ青天白日の辻本に對し本件以外に醜行ありと云々の論告は甚だ無禮なり云ふが如く醜行爲あらば何故檢擧せぬかなど暴言を吐き居たるが該事件は來る十一月一日楠裁判長寺田檢事の係りにて公判開廷ある由なるが辯護人として中村金澤の兩氏出廷す可しと

●古物商人の迷惑 去る廿二日の本紙に「盜ますと盜獄行」と題せし記事中御成町八番戸古物行商人吉岡德松（四六）が二十日午前九時半頃南山町四丁目憲兵隊官舍に忍び入り毛布一枚を竊取し取押へられ檢事局に送られたる旨記したるが右犯人は吉岡德松方の溫突に同居せる松永鹿太郎（三八）にして吉岡德松は證人として召喚せられたる迄なりしを校正の際見落したる誤に付訂正す

●道具方の僞狂言 愛知縣八當時南大門外御成町御成座道具方菊池義忠（二〇）は二十五日午後七時半頃南大門通り二丁目山路善吉が盜難に罹り犯人を追跡せんと爲し居る所に刑事巡查なりと詐稱し節かにせよ又た人相其他を聽取る眞似をなし被害者をして追跡の期を誤らしめたる事發覺し南部署に於て拘留十日に處せらる

楼清月樓第一樓位に[illegible]と聞いたが夜に入ると又隊業、邪魔になると思つたので昔春、大桝、京城の三軒のを見た丈けである、京城楼主は目下差形繪入の爲めとあつて内地へ出張中だとかですみ子女將の案内で大廣間に通される、床を心に長方形に飾れた百有餘の菊花は各がしゝ其の色に驕つて居る女將は酒見金華園主の娘御だ相で從つて非常に花に趣味を持つて居られることは曾つて女振り子が紹介した筈だ、で菊と朝貌とが得意だが現今では專ら菊を專門に行つて居る、金華園から來た種の中信樂、夕空、唐子の舞、狂ひには月の桂、萩の下露等がある、妓樓の部屋にも二三鉢宛飾つてあるおすみさんは寫生畫が上手だ相で

本町一丁目 山岸天佑堂店頭の菊

帳場を下女代理も行る其仲居や娼妓が見苦しい姿や居眠りでもして居ると直ぐ寫生して之れを見せて自ら愼しむ樣にさせる、たすみさんは其の餘暇に菊の手入れと云ふのだかし偷備に上つ張り姿だ、本年も毎年の通り毛少し、金華園で作つた盆を飾ると云ふから、夫れこそ眞實に錦上花を飾ると云ふ可であらう

菊のいろく（七）

▲京城樓上の菊花 長い月日の不景氣を菊で飾つて景氣を付けやうと企てゝ居た新町遊廓、漸く其の待ちに待ちた滿開の近付いた今日宵見して置く必要があらふと二十六日の午後五時頃出掛けた、十一軒の各樓全部菊が飾つてはあるが自身で栽培してゐるのは京城樓、大桝屋、皆春樓、清進

●說教 若草町曹洞宗本山別院にては明二十八日午後七時より宗祖兩大師の報恩講を修し說教をなすといふ因に今後は毎月之れを修する由

（越智榮次郎君）

廓のうわさ

新町遊廓玉家、皆春の兩樓にては左の如く綺麗首を抱へ込み廿六日より孰れも陳列致すべく候▲千葉縣生れ淺野いち（二〇）は玉野と神奈川縣生れ西川きく（二二）は燕と名乗り神奈川縣生れ竹村たつ（十九）は辰子と名乗り玉家より▲神奈川縣生れ石井きみ（二二）は綾子と東京府生れ伊藤つね（二七）は花香と神奈川縣生れ大崎するゑ（二二）は絹糸と千葉縣生れ木村すけ（二四）は玉菊と同上吉崎との（二七）は吉江と同上竹村すま（二二）は花香と兵庫縣生れ橋本つね（十九）は小町と名乗り孰れも皆春樓より突出され申候（廓雀）

●狂葉福壽草苗分讓 長野縣下高井郡延德村二六一福壽草園と云ふは各國優美草花の育成場と全國に知られる處なるが今回併合紀念祝草として該草は新年に目出度き名花なり今回黃金咲八重咲撫子咲裏紫紅八ツ房咲等珍奇大輪咲のみ五本を一組として普く分苗する由花好同士は實費二十錢を送らば詳細なる培養開花法を添へ完全に荷造り送達す尙二組希望者三十八錢と云ふ

目と耳（廿八日分）

▲壽座 雁十郎一座の代り狂言は前「鼠小僧」中「老後の政岡」切「梅川忠兵衛封切」なりと因に同一座は三十日限り當地打ち揚げ平壤に乘込み同地歌舞伎座の舞臺開きをなす由なりと

▲浪花館 若遊三一座の代番組如左三人旅、子賞め、金明竹、花色木綿嘘つき村、滑稽商人、喜劇、芝居道樂、ヴアイオリン、電氣應用所作事

●活動寫眞演說會 旭町二丁目日本メソヂスト教會にては二十八日午後六時より矢津日曜學校教師司會の下に活動寫眞演說會開催すべしと云ふ順序左の如し來會者を歡迎す

讚美歌（來會者一同）聖書馬太傳十八章（生徒安間德勝）開會の祈禱（同細井初子）開會の辭（山口校長）羽衣讚美歌（生徒一同）いたづら小僧（活動）忠義の馬（同）讚美歌（生徒一同）カクレンボウー（同）日本海戰（同）演說（松澤光茂君）讚美歌（生徒）サムソン一代記（活動）二重橋…君が代三回（來會者一同起立）閉會の祈禱、報告

今日の運勢

十月廿八日舊九月廿五日 七赤先負丙寅納△一白●起業開店旅行婚談尤も好し飲食の節を失し易し△二黑●外誘に陷ゆる勿れ尙無心懇願寄附樹財にわふわらん他は進んで吉△三碧●轉倒顚踣し易し起業開店貸借金談賣買證券の授受尤も注意の事△四綠●盜難横領防ぐべし人より咎疑にわふわり新規旅行見合せの爭△五黃●貸借保證引受受託見合すべし他は吉△六白●商人は利得ある日なり總じて轉住旅行分業分家に吉他は手控への事△七赤●新事見合せの事批評中傷等總じて口舌の難に罹り易し△八白●親疎に拘らず損害を受け易し其他大凡吉△九紫●新規旅行見合せの事婚談貸借談合聯合組合尤も成立し難し（一本町五丁目三一舘判斷）

諸看板製作

油繪肖像畫●硝子金文字入ペンキ塗工事大勉強請負

永樂町二丁目赤門通り

樋野工舍